

第 3 学 年
理 系

国語科年間指導計画【3年文学国語】

■単位数	■使用教科書	■使用副教材	
2単位	文学国語（筑摩書房）	熟語を音訓から学ぶ 新版・品詞別・頻出漢字マスター3000(尚文出版)、国語頻出問題1200(いっずな書店)	

■目標
 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

■内容
〔知識及び技能〕
 (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。
 イ 情景の豊かさや心情の繊細を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
 ウ 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めること。
 エ 文学的な文章における文体の特徴や修辭などの表現の技法について、体系的に理解し使うこと。
 (2) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。
 イ 人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。
〔思考力、判断力、表現力等〕
A 書くこと
 ア 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。
 イ 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。
 ウ 文体の特徴や修辭の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。
 エ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の長所や課題を捉え直し直すこと。
B 読むこと
 ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。
 イ 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。
 ウ 他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察すること。
 エ 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。
 オ 作品に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。
 カ 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を深めること。
 キ 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のもの見方、感じ方、考え方を深めること。

■評価の観点とその趣旨

(1) 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。
(2) 思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
(3) 主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

■指導計画

月	単元名	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等										言語活動					教材	評価の観点及び評価方法	配当予定時数			
		(1)		(2)		書くこと					読むこと					言語活動								
		アイウエ	アイ	アイウエ	アイ	アイウエ	アイウエ	オカキ	アイウエ	オカキ	アイウエ	オカキ	アイウエ	オカキ										
1学期前半	人物造形や心理描写に触れ、もの見方・考え方を深めよう	●																					(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
1学期後半	内容や解釈を自身の知見と結びつけよう		●																				(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
2学期前半	調べとリズムをとらえて心情を考察しよう	●																					(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
2学期後半	文章を読み、新たな視座を得よう		●																				(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
3学期	表現を突き詰め、もの見方・考え方を深めよう		●	●																			(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
3学期	背後にあるメッセージを読み取り、自身の考えを深めよう				●																		(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
3学期	正確に読解しよう		●																				(1)-定期テスト (2)-定期テスト (3)-振り返りシート	
3学期	正確に読解しよう			●																			(1)-定期テスト (2)-定期テスト (3)-振り返りシート	

国語科年間指導計画【3年理系古典探究】

■単位数	■使用教科書	■使用副教材
4単位	高等学校古典探究(第一学習社)	古文解釈のための総合力を養う 完全マスター古典文法(第一学習社)、基礎から解釈へ 漢文必携(桐原書店)

■目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
------------	---

■内容	<p>〔知識及び技能〕</p> <p>(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>イ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。</p> <p>ウ 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。</p> <p>エ 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めること。</p> <p>(2) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。</p> <p>イ 古典を読むために必要な文語のさまりや訓読のさまりについて理解を深めること。</p> <p>ウ 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。</p> <p>エ 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>A 読むこと</p> <p>(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。</p> <p>イ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。</p> <p>ウ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。</p> <p>エ 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。</p> <p>オ 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>カ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>キ 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。</p> <p>ク 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。</p>
------------	---

■評価の観点とその趣旨	<p>(1) 知識・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>(2) 思考・判断・表現 「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p>
--------------------	--

月	単元名	知識及び技能								思考力、判断力、表現力等								言語活動					教材	評価の観点及び評価方法	配当 予定 時数		
		(1)				(2)				読むこと								ア	イ	ウ	エ	オ				カ	キ
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ											
1 学期 前半	和歌に触れ、背景事情を理解し考えを深めよう				●																			沙石集「歌ゆゑに命を失ふこと」	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	表現から心情を読み取り、文章にしよう	●																						枕草子「宮に初めて参りたるころ」	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	時代背景を学び、他作品と比較しよう						●																	史記「荊軻」	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
1 学期 後半	登場人物の描写を読み取り、心情を考察しよう																							源氏物語「須磨」	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	文章に現れたものの見方や考え方を理解する				●																			大鏡「三舟の才」	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	批評の目を通して古文を評価する態度や手法について考えを深めよう							●																無名抄「深草の里」	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
2 学期 前半	人物造形や心理描写に触れる				●																			無名草子「清少納言」 「紫式部」	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	句作をめぐる苦心や理念を読み取り、俳諧に対する理解を深めよう							●																去来抄「行く春を」	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	登場人物の描写を読み取り、思考を考察しよう								●															史記「張儀」	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
2 学期 後半	古体の詩に触れ、詩に現れた作者の思いを読み取ろう																							古体の詩「石壕吏」	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	内容や解釈を自身の知見と結びつけよう				●																			問題演習	(1)-定期テスト (2)-定期テスト (3)-振り返りシート		
3 学期	登場人物の造形を考察し、正確に読解しよう																							問題演習	(1)-定期テスト (2)-定期テスト (3)-振り返りシート		
	知識・理解を深めよう																							問題演習	(1)-定期テスト (2)-定期テスト (3)-振り返りシート		

2026年度 地歴公民科		年間授業計画表				
科目名	地理探究	単位数	3	学年・類型	3年・理系	
担当者		使用教科書	新詳地理探究(帝国書院) 高等地図帳(二宮書店)	副教材	新詳地理資料COMPLETE2025(帝国書院) 地理統計Plus・webGIS付き(帝国書院)	
科目の目標 (指導目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。 					
評価の観点とその趣旨						
① 知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。					
② 思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。					
③ 主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養おうとしているとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される者としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚している。					
評価方法						
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト						
② 思考力・判断力・表現力について・・・定期テスト、思考力を問う小テスト等						
③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価等						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 前 半	第1部 現代世界の系統 地理的考察	第1章 自然環境 1. 地形 2. 気候 3. 日本の自然環境 4. 地球環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ◆地形、気候、生態系などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ◆地形、気候、生態系などに関わる諸事象について、場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現する。 	○		○
		第2章 資源と産業 1. 農林水産業 2. 食料問題 3. エネルギー・鉱産資源 4. 資源・エネルギー問題 5. 工業 6. 第3次産業	<ul style="list-style-type: none"> ◆資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ◆資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 	○		○

1 学期 後半		<p>第3章 交通・通信と観光、貿易</p> <p>1. 交通・通信</p> <p>2. 観光</p> <p>3. 貿易と経済圏</p> <p>第4章 人口、村落・都市</p> <p>1. 人口</p> <p>2. 人口問題</p> <p>3. 村落と都市</p> <p>4. 都市・居住問題</p> <p>第5章 生活文化、民族・宗教</p> <p>1. 衣食住</p> <p>2. 民族・宗教と民族問題</p> <p>3. 国家の領域と領土問題</p>	<p>◆交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。</p> <p>◆交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>◆人口、都市・村落などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。</p> <p>◆人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>◆生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。</p> <p>◆生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	○			○	○
	2 学期 前半	<p>第2部 現代世界の地誌的考察</p> <p>第1章 現代世界の地域区分</p> <p>1. 地域区分</p> <p>第2章 現代世界の諸地域</p> <p>1. 東アジア</p> <p>2. 東南アジア</p> <p>3. 南アジア</p> <p>4. 西アジア</p> <p>5. アフリカ</p>	<p>◆世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料を基に、世界を幾つかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義などについて理解する。</p> <p>◆世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身に付ける。</p> <p>◆世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、主題を設定し、地域の捉え方などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>◆幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、諸地域に見られる地域的特色や地球的課題などについて理解する。</p> <p>◆幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解する。</p> <p>◆現代世界の諸地域について、地域の結び付き、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	○			○	○
	2 学期 後半	<p>第2部 現代世界の地誌的考察</p> <p>第2章 現代世界の諸地域</p> <p>6. ヨーロッパ</p> <p>7. ロシア</p> <p>8. 北米</p> <p>9. 南米</p> <p>10. オセアニア</p>	<p>◆幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、諸地域に見られる地域的特色や地球的課題などについて理解する。</p> <p>◆幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解する。</p> <p>◆現代世界の諸地域について、地域の結び付き、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	○			○	○
3 学期	<p>第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像</p> <p>第1章 持続可能な国土像の探究</p> <p>1. 将来の国土の在り方</p> <p>2. 持続可能な日本の国土像の探究</p>	<p>◆現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究を基に、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解する。</p> <p>◆現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結び付き、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現する。</p>	○			○	○	
留意事項								

2026年度 数学科 年間授業計画表						
科目名	数学Ⅲ・数学ⅠⅡⅢABC演習	単位数	3・3	学年・類型	3年 理系・選択	
担当者		使用教科書	高等学校 数学ⅠⅡⅢABC (数研出版)	副教材	クリアー数学Ⅲ+C(数研出版) チャート式数学Ⅲ+C(数研出版)	
科目の目標 (指導目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 					
評価の観点とその趣旨						
① 知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。					
② 思考・判断・表現	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。					
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。					
評価方法						
記述の点検，確認，分析 行動の点検，確認，分析 (定期テスト，小テスト，課題レポートやその他提出物等への取組状況，授業への取組状況 等)						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項口	単元や題材など内容のまとめりの目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期前半	【数学Ⅲ】 第1章 関数	—	・分数関数や無理関数の性質を理解し、それを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また、関数の一般的な性質として逆関数や合成関数などについて理解し、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○
	第2章 極限	第1節 数列の極限	・数列の極限の概念を理解し、様々な数列の極限が求められるようにする。無限級数については、その極限と各項の極限との関係を理解し、正しく考察できるようにする。	○	○	
		第2節 関数の極限	・数列の極限と関連させて関数の極限について理解し、関連して関数の連続性についても理解するとともに、それらを様々な関数の考察に活用できるようにする。	○	○	○
	第3章 微分法	第1節 導関数	・微分係数や導関数の定義を理解し、導関数についての様々な性質や公式を導き、それらを導関数の計算に活用できるようにする。	○	○	
第2節 いろいろな関数の導関数		・導関数の定義や公式を適用して、いろいろな関数の導関数を導き、それを用いて関数が微分できるようにする。また、陰関数や媒介変数で表された関数の微分もできるようにし、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	
第4章 微分法の応用		第1節 導関数の応用	・導関数を、接線、関数の増減、グラフなどに活用できるようにするとともに、積極的に導関数を活用しようとする姿勢を育てる。	○	○	
	第2節 いろいろな応用	・関数のグラフを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また、点の運動や近似式についても理解し、導関数を様々な方法で活用する姿勢を育てる。	○	○	○	
1学期後半	第5章 積分法とその応用	第1節 不定積分	・様々な関数の不定積分やその計算法則を、導関数をもとにして考え、それをもとに不定積分を求められるようにする。	○	○	

2 学期 前半	第5章 積分法とその応用	第2節 定積分	・様々な関数の定積分を求められるようにする。また、定積分を面積として捉え、様々な事象の考察に活用できるようにする。	○	○	
		第3節 積分法の応用	・定積分を活用して、面積、体積、曲線の長さなどを求められるようにし、またそれらを通じて定積分の理解をさらに深める。	○	○	○
2 学期 後半・ 3 学期	数学ⅠⅡABC (総合演習)	数学ⅠⅡABC全範囲	・大学入試問題集を利用し、入試頻出の解法が必要な問題、総合的な力を試す問題を中心に扱い、演習を通して、入試に必要な技能を活用する態度と思考力・判断力を身に付ける。 ・数学的思考力を高め、論理的に判断、表現する能力を身に付ける。		○	○
	数学ⅠⅡABC (マーク式演習)		・マーク式問題演習を通して、これまで身に付けた知識・技能を適切かつ迅速に活用する能力を高める。		○	
	数学Ⅲ (記述演習)	数学Ⅲ全範囲	・大学入試問題集を利用し、入試頻出の解法が必要な問題、総合的な力を試す問題を中心に扱い、演習を通して、入試に必要な技能を活用する態度と思考力・判断力を身に付ける。 ・数学的思考力を高め、論理的に判断、表現する能力を身に付ける。		○	○
留意事項		<p>・演習は予習が前提の授業です。予習は、問題解決に向かって、既習事項を活用したり、出題者の意図を読み取ったりしながら、自ら試行錯誤する学習姿勢が不可欠です。</p> <p>・数学の問題の答えは1つですが、解法は様々あります。他人が作成した解法を安易にまねる学習方法では、理系入試に対応する学力は身につけません。定期テストや実力テストも本格的な学力が身についたかどうかを確認するテストになります。必要に応じてテキストを購入します。</p>				

2026年度 数学科 年間授業計画表							
科目名	数学ⅠA演習・数学ⅡABC演	単位数	4・2	学年・類型	3年 理系・選択		
担当者		使用教科書	高等学校 数学ⅡABC (数研出版)	副教材	キートレーニング数学演習ⅡABC (数研出版)		
科目の目標 (指導目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。 						
評価の観点とその趣旨							
① 知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。						
② 思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。						
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。						
評価方法							
記述の点検、確認、分析 行動の点検、確認、分析 (定期テスト、小テスト、課題レポートやその他提出物等への取組状況、授業への取組状況 等)							
学習指導計画							
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点			
				①	②	③	
1学期前半	【数学Ⅱ】 ・式と証明 ・複素数と方程式 ・図形と方程式 ・三角関数 ・指数対数 ・数列	数学ⅡABC全範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書レベルから章末レベルの問題・入試頻出の解法が必要な問題を中心に扱い、演習を通してこれまで学んだ内容の理解を深め、入試に必要な技能を身に付ける。 ・計算技能を高めるとともに、事象に対して筋道を立てて考え、論理的に判断する能力を身に付ける。 	○	○	○	
	【数学ⅡBC】 ・ベクトル ・複素数平面 ・2次曲線 ・微分法・積分法			○	○	○	
2学期前半	数学ⅡABC (総合演習)			<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試問題集を利用し、入試頻出の解法が必要な問題、総合的な力を試す問題を中心に扱い、演習を通して、入試に必要な技能を活用する態度と思考力・判断力を身に付ける。 ・数学的思考力を高め、論理的に判断、表現する能力を身に付ける。 		○	○
2学期後半	数学ⅡABC (総合問題) (マーク式演習)			<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試問題集を利用し、入試頻出の解法が必要な問題、総合的な力を試す問題を中心に扱い、演習を通して、入試に必要な技能を活用する態度と思考力・判断力を身に付ける。 ・数学的思考力を高め、論理的に判断、表現する能力を身に付ける。 ・マーク式問題演習を通して、これまで身に付けた知識・技能を適切かつ迅速に活用する能力を高める。 		○	○
3学期	数学ⅡABC (マーク式演習)			<ul style="list-style-type: none"> ・マーク式問題演習を通して、これまで身に付けた知識・技能を適切かつ迅速に活用する能力を高める。 		○	
留意事項	演習は予習が前提の授業です。予習は、問題解決に向かって、既習事項を活用したり、出題者の意図を読み取ったりしながら、自ら試行錯誤する学習姿勢が不可欠です。数学の問題の答えは1つですが、解法は様々あります。他人が作成した解法を安易にまねる学習方法では、理系入試に対応する学力は身につけません。必要に応じてテキストを購入します。						